

超常現象・超常感覚機能

今回のテーマは、多くの人が興味を持っているのではないかと思います。社会の中でも、さまざまな人々が超常機能や超常現象を扱い、そして仕事にしています。神秘的なことに興味を引かれる人々も、大勢います。では、いったいそれらはどういうことなのでしょう。それらについて、本当に正しいことを知っているのでしょうか。それを問い、探りたいと思います。

1 我々の持つ機能

もう何度も書いてきましたが、我々は魂、霊、肉体を持っています。それらすべては創造主から与えられます。そして、すべてのものは、なんらかの表現を通して表わされます。魂は目で見ることも、形あるものとして、さわることもできません。けれども、我々の中で最も神聖なもの、それは魂です。真実、自分自身である、と言えるのは魂だけです。最も確かな、そしてすべてを越えて崇高な魂は、至高の神からやって来ます。魂は神の一部、神と同じです。それは、言葉やなにかで表現できるものではなく、全宇宙にあるすべてのエネルギーを超越するものです。魂を表わすために、霊という洋服を着ます。そして、さらに形をとるために、肉体という物質の洋服を着ます。霊はエーテル（霊気）でできていて、魂という形なきものと、肉体という物質との間でパイプ役を果たしています。肉体はだれでも知っているように、ごらんのとおり、ここにあります。そして、それぞれが、それぞれの役割に応じた働き、機能を持っています。

肉体は三次元に属します。生物として、物質として生命を維持するために必要な内臓、神経組織、感覚器官などを持っています。そして、呼吸、消化、排泄、生殖作用を行い、五感という感覚を持っています。そして忘れてならないのは、我々の進化のために欠くことのできないエネルギーの変換……心理や性エネルギーのすべての変換は、この肉体の中で行われるということです。霊は四次元に属します。生命体（エーテル体）を持ち、肉体の生命維持に深く関与しています。また、霊は、中性の心理（サイキス）を持ち、サイキック（心靈的）な機能として超常感覚機能を持っています。そして、肉体と魂の完全な調和のために働いています。（2号参照）魂はエネルギーではありません。魂は魂そのものです。100

％純粋な、影さえない光です。魂の持つ美德には、眞実の愛、善、幸福、知性、意志、意識などがあります。これらは、霊に反映されるものです。そして魂が、我々を進化へ、光へと押しているのです。このように肉体、霊、魂は無関係にあるのではなく、1つのものとして存在しています。

今、我々が、ここで肉体を持って生きている——それは、至上の次元から、魂の火花として旅立って来たところから始まっています。そうすると、今、この目に見える世界の前に、見えない世界があったのです。とすれば、この世のこと、自分自身のことを本当に深く、完全に理解するには、見えない世界のことを理解しなければなりません。我々は自覚しようとしまいと、この三次元の可視の次元と、四次元から上の不可視の次元を生きています。我々を取り巻く世界は、上にも下にも多くの次元があります。そして、大変多くの現象が起こります。我々は、物質的な、目に見える世界のためには、肉体の五感が与えられ、精神的な目に見えない世界のためには、超常感覚機能が与えられています。大事なことは、これらの機能を正しく使って、起こってくる現象を正しく理解し、本当の現実を見きわめていくことです。本当に現実を見、理解できれば、おのずと本当の道が照らし出されます。与えられたすべての機能は、本当の道、魂の進化の道を歩くためのものです。自分の足で、自分自身の判断と意志によって、この道を歩くためです。超能力や霊媒、占い、UFOコンタクト（交信）、それらの表面的なことに目を奪われ、盲目的にだれかについていくことではありません。だまされないために、正しい知識が、どれほど必要であり、人々を助けていくものであるのか、考えてみてください。

人間は、なぜ生まれ、生きなければならぬのか、自分はだれなのか、どういう存在なのか、なぜ、生と死があるのか、心とはなんなのか、確かな答えを教えてもらいながら、大人になった人があるでしょうか、ないと思います。なぜなら、学校教育も社会全体も、すでに観念的な、物質的な土台しか持っていません。すでに頹廃が始まって、長い時が立ち、もう頹廃しきっています。それなのに、どうして正しい知識を教えられるでしょう。だとすれば、子どもたちや若い人々は、どんな解答を与えられるというのでしょうか。すべてを与えられている人間が、そのすべての機能を忘れ去り、さびつかせてきています。そして、この頹廃した社会、物質的な社会の中で、我々はもうロボットのようです。ロボットのようでありながら、それでも人々は求めています。不調和に苦しみ、出口を求め、光を求めています。けれども、求める心、心がけ、それだけで解決することは決してありません。エゴこそ問題の元だ、目を開けよ！ そのように叫ぶ人はいます。でも、それだけではこの現実を変えることはできません。どうやってエゴをなくすのか、どうしたら眠りこけた目が見えるようになるのか、それを知ることこそ必要です。ノーシスは知識を伝えます。その知識をどのように受け止め、どのように使っていくか、また使わないか、強制するものはありません。皆さんの自由です。大層

なことは、自分の足で立つことです。自分の意識をもって生きることです。自分で考え、自分の力で判断できるようになることです。それは、みずから自分を救い、隣人を助けるためにです。

2 超常感覚機能とは

これはすでに説明したように、だれもが持っている霊、心理の機能です。ですから、すべての人に備わっているものです。超常と言うので、大変特別なことだと思っていたり、異常だと見なしたり、また反感や不信感を持つ人々もあります。そして、権力やパワーをほしがるように、この機能にあこがれたり、執着を持ったりします。また、なかには、この機能が人よりも発達しているために尊大になったり、逆に苦しんでいる人もあります。それは、この機能についての正しい知識と理解が、本人にも周囲の人にもないためです。そのために、エゴを強めたり、むだに苦しまなければならなかったり、多くの問題が生まれています。超常感覚機能、超常現象は科学的に説明できるものであり、ただ、それを我々が知らないだけです。自分自身と、この世のことを、本当に正しく理解していくためには、見えない世界を実感し、理解する必要があります。物質的な世界は五感で感じとり、精神的な世界、不可視の世界は、この超常感覚機能で感じとります。それによって、三次元、四次元を生きる我々の、本当のバランスをとっていくことができます。我々の現状は、三次元の物質世界のみにかたよりすぎ、とてもアンバランスになっています。人間としての調和、バランスのためには、これらの機能を調和的に開発していかなければなりません。

超常感覚機能とその働き

我々の持つ超常感覚機能は、肉体の内分泌腺と対応している霊的な器官、チャクラのところにあります。チャクラを開発することによって、その機能を培い、強めていくことができます。8号の、性エネルギーを使ってこの機能を開発する方法（8号14、15ページ参照）を思い出してください。超常感覚機能は、だれの中にも潜在していて、だれでも開花させることができるものです。

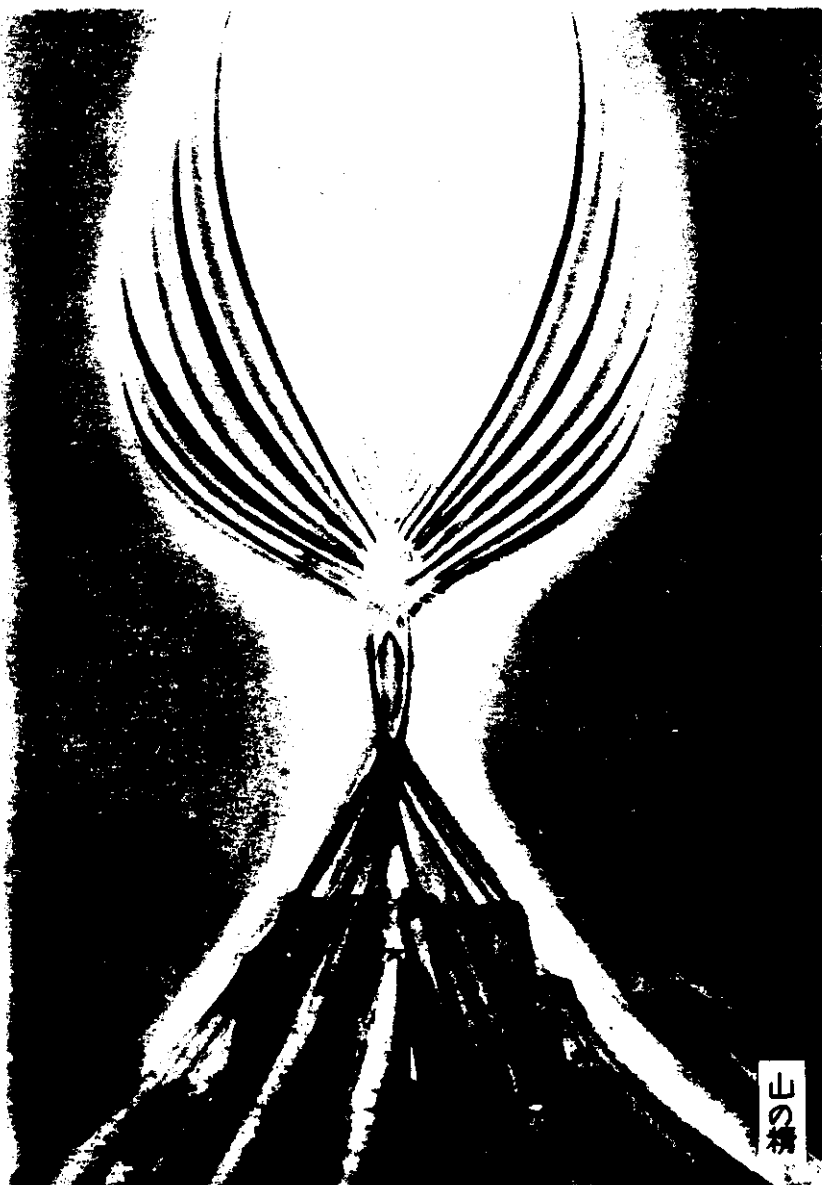
- ① 超視覚 — 脳下垂体（眉間の奥） — 霊視、オーラ、エゴ、幽霊など不可視の次元を見る。
- ② 超聴覚 — 甲状腺（のど） — 内部聴覚、これによって遠距離の音、また不可視の次元の音、声を聞く。予言やメッセージを受ける。
- ③ 直観力 — ハート — 俗に虫の知らせなどとも言う。未来のことを感じとり予知する。特に事故、家族の死、結婚など、第六感。
- ④ テレパシー — 太陽神経叢（おへそ） — 言葉などの物質的な方法を使わずに、遠くからのメッセージを受けたり、送ったりする。

(5) 超記憶——肺——今だけでなく、前世、転生の間に重ねてきた潜在している記憶。

ごらんのように、これらの機能を開発することによって、我々は多くの可能性と学習を得られます。エゴやオーラを見て、自分や他人の内的な状態を深く理解できます。健康や病気を知り、未然に予防し、治療もできます。エゴを発見し、自分の心理的な改善、進化のために生かします。他の次元との交信も可能です。メッセージや知識を受け、未来に生かすことができます。事故を防ぎ、避けられない死への心理的な準備もできます。また、自然界の精と交信し、医学的な知識や治療を得たり、高次との交信によって生命の神秘を知ったり、進化のための援助を願うこともできます。トランス（催眠）状態で、他の霊に自分の体を使わせて、予言やメッセージ、治療を行ったりもします。フィリピン的心灵治療やエド

ガー・ケイシーもよく知られています。また、下の次元がどのようなものか、そして死人のぬけがら（パーソナリティ・人格）である幽霊を見たり、その幽霊に肉体を使わせてしまったりします。多くの所で、多くのグループや人々が、UFOやE.T.と交信した。神の啓示だとか、本当の霊媒だと言ってさまざまなことをしています。それらは、現実にはどのようなことが起こっているのでしょうか。考えられることをあげて、説明したいと思います。

① 自然界の精との交信——自然界にある元素、火、水、



山の精

土、空気、植物など、自然界のすべてに精霊、知性があります。我々の生命も、物質（肉体）によって成り立つのではなく霊気（エーテル）によって支えられているように、この精なくしてどんなものも存在しません。よく、小さい子どもたちは、目に見えない自然界の精、花の精などと友だちになったり、一緒に遊んだりします。なぜなら、子どもたち、特に3~5才くらいの子どもの意識が最も目覚めているからです。約3%の意識の目覚めは、それ以後落ち、大人になると1%くらいになってしまいます。見えないもの、見えない世界を認めていない社会の偽りの教育による結果です。

(2) 死人のパーソナリティ（人格）との交信 — 人間が死ぬ時、地上に残るのは、物質としての肉体とパーソナリティ（人格）です。パーソナリティは、人間の最も外側をつつんでいるエネルギーです。死後におこること、死の過程を思い出してください。（5号参照）せみのぬけがらを考えてみてください。それはもう、用のないものです。せみは、ほかの所で生きています。ですから先祖供養は、自然界に消化されるべきはずのぬけがらのエネルギーに、栄養を与える行為です。その上、水子はパーソナリティさえ作られる前に死んでいます。いったい、なにを供養するのでしょうか。お供え物は、だれが食べているのでしょうか。先祖の真実の霊や魂とは無関係の外側のぬけがら、幽霊が供えられた物のエネルギーを吸収しています。そして幽霊のエネルギーが集中、凝集することによって、肉眼でも見える形をとることがあります。ですから、死人の霊の姿を見ることが、ぬけがらの姿を見ているのだとおわかりになるでしょう。このぬけがら、幽霊は眼には見えても、実体のないものですから、鏡には映りません。我々の目は心理（サイキス）の窓ですから、幽霊の目は全く焦点のないような、うつろな目をしています。交信のほとんどは、この死人のパーソナリティであると考えられます。そして死人の生前の癖や好みによって、いろいろ交信して来るといわけです。宗教によって商売をしている人々に、だまされなければならないにも正しい知識が必要です。

(3) 高次の霊との交信 — 高次にも多くの次元と、それぞれの段階の進化した霊、存在があります。進化したイニシエート（奥儀に通じた人）、復活を成しとげたイニシエート、天使、神々が存在しています。高次の霊が、人類の進化のための助けや導きを与えます。たたけよ、さらば開かれん、求めよ、さらば与えられん、これは、神が人類に与えた約束です。だれにも、どんな時にも援助は与えられるのです。平等に与えられているのです。我々が知らなければならぬのは、助けを願うこと、そして援助があるということです。ですから、自分のためにも、隣人のためにも、死人の本当の霊のためにも、高次の真実の助けを願わなければなりません。聖なる法によって、心から願うなら、どのような存在の助けでも与えられます。高次から与えられるメッセージは、我々の精神的な進化に関することであり、シンボルを通して与えられます。具体的な言葉

の指示ではなく、深い意味を秘めた象徴、シンボルで伝えられます。ですから、それを完全に理解するのは難しいことです。なぜなら、我々にはエゴがあり、メッセージはそのエゴの障害を通過して、我々に届くのですから。だからこそ、エゴ根絶と心理浄化をしなければならぬのです。素直な無垢な心を取りもどしましょう。



④ 悪魔との交信 — 我々の中には、寄生虫のようなエゴが巣くっています。エゴは、我々の魂が光であること、進化へと押し進めていることをよく知っています。そして同時に、我々の人間的な部分、癖や好み、弱点もよく知っています。そして我々の進化、進化しようとするどんな動きでさえ妨害してきます。エゴは、我々の進化によって、自分（エゴ）が消滅させられることを理解しています。ですから、我々の進化をやめさせることは、エゴにとって命がけのことなのです。そんなことは信じられないように思うかもしれませんが、けれども、この通信を受け、自分のエゴに目を向け始めたたん、起こり出した変化に驚き、そしてエゴの存在を実感し始めた人もあります。1つのエゴに意識を集中しだした時、夢の中でそのエゴの誘惑を猛烈に受けてしまいました。そして防御することはできませんでした。しかし、それがどういうことか、その人はシンボルの意味やノースで習ったことを頼りに考えました。そして、つぎに夢を見た時、「ペンタグラム！」と言って悪の力を断ち切ったのです。ショックな夢、防御の実践、それによって、エゴの実在を知り、性エネルギーの昇華の必要性を実感しました。我々がなんの意識も意志も持たない時、我々を操縦しているのはエゴです。エゴにとって、我々は心配無用のロボットです。でも、ほんの少しでも、我々が内なる意志と意識を働かせ始めるなら、エゴにとっては安住の地を奪われ出すことになります。ですから、エゴの妨害が始まります。しかし、エゴの妨害は、我々の目をさまさせます。この夢によって、その人は大変多くのことを体験し、学びました。妨害も援助に変え、生かすことができましたのです。ここで、9号で説明した悪魔について思い出してください。悪魔は、我々のエゴに働きかけ交信して来ます。内なるエゴ、そして外にある

悪魔、それらは互いに引きつけあい助けあって、いかに我々を落とそうか、退化させようかとしています。エゴも悪魔も大変するがしく、あらゆる機会をねらって待っています。ですから、その人の好みや興味をねらって、買をしかけてきます。本当のU.F.OやE.T.のように、また天使や神のように我々をくすぐり、揺さぶり落とそうとします。このような交信ができると、自分は特別の人間である、自分は神や天使に近づいたと錯覚します。それによって虚栄や名誉、権力欲と多くのエゴを満足させ、増大させます。高次との交信では、こんなことは起こりません。高次の援助は、すべての欲望、エゴを捨て進化を導くためののですから、多くの交信を行う霊媒や宗教・グループにだまされないようにしなければなりません。

我々はぬくぬくと眠りこけているうちに、自分がもう落ちてしまっていることに気づきません。正しい知識がいかに重要であるか、我々がいかにだまされやすいかを考えてみてください。正しい知識なしに、物事を見ぬくことは困難です。正しい知識という磁石を手にし、確かな道を自分自身で見つけ出し歩くことを習わなければなりません。それによって一つずつ、見えるもの、見えないものを正しく理解し、だまされることのないものさしを手に入れることができます。自分を救うのは、ほかならぬエゴを根絶していく自分なのです。

そのほか、超常的な機能を使ってできること、起こることに空中浮揚やナワリズム（次元を越える秘法）があります。我々の肉体（三次元）が、霊（四次元）と同じ振動数まで高まり、四次元の振動に同調すると、肉体は三次元の引力の法則から解放されます。そうすれば、肉体ごと浮くことができます。これが空中浮揚です。前号で、アストラル体の指が伸びることを説明しましたが、それは我々の霊の体は物質ではなく、形に制限されるものではないからです。そして、我々が伸びるはずがないと思っている間は、指は伸びません。これは、我々のマインド（想念）の限界を示すと同時に、我々の霊的な体は我々の思うままの形をとれる、ということをお教えします。我々の心理のあるがままの姿になれるということです。夢の中で望むものになれる

のは、このためです。そして、肉体も霊と同じ振動数になっている時に、肉体まで、その心理の形に変えることができます。これがナワリズムです。ですから幽体離脱の時、アストラル体だけでなく肉体ごと四次元にはいってしまえば、肉体を消すことができます。これらの現象は、すべて肉体の波動、振動数を受

タイガーの騎士が変身する過程を描いたもの。



えることが原理になっています。

このように、突拍子もないことのように思えることも、科学的に説明できることです。アステカ時代のワシやタイガーの騎士(鷹や虎に変身した)の例も、大変、興味深いものです。イエス・キリストがガリシヤ海の上を歩いたのも、今、インドなどで見られる水上歩行も、どういうことかおわかりになるでしょう。そして、奇跡と商売や見せ物の違いにも気づくでしょう。かつての偉大な古代文明時代の人々が、突然、消えてしまったのも、進化を成しとげ完全に波動を変えて、上昇していったからです。まさしく、天に昇っていったということです。

3 超常感覚機能の正しい開発のために

これらの機能は、多くの人の関心を呼びます。超能力を手に入れたいと望む人もいます。これらの機能はだれにも備わっていて、だれでも伸ばしていけるものです。そして、ノーシスでは、超常感覚機能を開発していく具体的な方法を教えます。しかし、土台のない所に建てた家は大変こわれやすいということに、注意してください。与えられている機能を、本当に培い、生かしていくために、どんな土台の上に家を建てればよいでしょうか。我々に、これらの機能はなんのために与えられているのか、そして、それを、我々はなぜ開発したいのか、なにに使うのか、その心理的な土台を、1人1人自分の内に準備しましょう。

なぜ与えられているのか

我々の中で、最も崇高なものは魂です。超常感覚機能は霊の機能です。魂の機能より下にあります。どんなに開発し、パワーある超能力を身につけたとしても、それは魂まで届くことはありません。我々の人生の目的は魂と霊を救い、解放することです。超常的な機能は、見えない次元を見させます。そして、自分の現実を、見えない奥底までさかのぼって、完全に理解するために与えられています。宇宙の隠された真実を見、進化を成しとげるための援助として与えられています。ですから、超常機能が魂を救うことにはないのです。完全な解放を持たらずエゴ根絶を、これらの機能によって達成することはできません。まして、どんなに超常機能が発達していようと、魂の乗り物である黄金の霊体を創れるわけでもありません。機能を開発させることは必要ですが、最も必要な大事なことはエゴ根絶です。エゴを根絶すれば、すべてをおおっているものは、なにもなくなります。すべての潜在している機能は、天性のままに働くことができます。特別に超常機能開発をしなくとも、エゴを根絶したなら、それらの機能は完全に開花します。なかには、直観力や超視覚さえあれば、すべてを見通し、あらゆる問題は解決すると錯覚する人がいます。でも、我々のエゴの成分(砒素イオウ、乾燥水銀)が肉体の中にある間は、我々の意識は完全に目を開くことはできません。我々を催眠に引きずり込むのは、消費された性エネルギーです。ですから、唯一、それに勝るもの、我々が昇華させた性エネルギーによって、このエゴの成分を体内から

実際になくさない限り、本当の解決はありません。超常感覚機能は、我々が進化していくために与えられています。心理的なことに目を向けず、機能だけを求めるなら失敗を招きます。その機能によって、さらにエゴを強め、さらに意識は眠りこけることとなります。これらの機能を悪用し、商売としてお金をとったりすれば、それは聖なる法に反します。その人に、大変なカルマとなってもどります。死後に、低次に行って償うことになるでしょう。

もし、我々が超常機能を発達させていないとしても、正しい知識があれば、自分の力で物事を見ぬき、だまされずに道を進んで行くことができます。超常機能を持ちながら、それがどういうことなのか、なにが起きているのかを知らないために苦しんでいる人々があります。正しい知識が、そのような人々に解答を与えます。持っている力を正しく伸ばし、使っていくことを教えます。正しい知識が、無知のためにだまされるのをくいとめ、エゴを強化することをやめさせます。我々は、自分の持っているもの、与えられているものすべてについて理解を深め、正しい関係と調和を持って培い、働かせていくことが重要です。

自分自身で判断を……

身近な例を、少しあげてみたいと思います。超能力と言えば、ユリ・ゲラーをすぐ連想する人も多いと思います。彼も超常機能を発達させた1人です。あちこちの国へ行き、テレビに出演し、スプーンを曲げ、時計を動かし……でも、それでどうなるのでしょうか。彼は超能力がなにか、自分がなにをしているか、理解していないと言えます。彼のしていることは進化でも、エゴ根絶でも、隣人を助けることでもありません。むしろ、彼のエゴは強まるばかりのように見えます。彼の持つ力で、自分を助け、多くの人々を助けることができるというのに、なにもしないでいます。また、ラジエーションを知っている人も多いと思います。精神世界のコーナーに、彼の本がたくさん並んでいます。大変すばらしい導師だと思っている人も大勢います。しかし、インドの彼の所まで出かけて行き、疑問を持って帰って来た人もいます。男女が体を接するようなことを、瞑想だと称してやっているのは納得できず離れたと言っていました。今は、精神、心を扱う団体も多く、それだけ情報があふれています。なにが真実か、ウソなのか、表面的なことではだまされないように注意しなければなりません。

メキシコには、子どもたちのための超常機能開発の学校があるそうです。そして、先生と子どもたちが日本にやって来て、テレビにも出ました。ごらんになった方も多いと思います。目隠しをし、テーブルで小さき、全く光の入らない状態で絵本を見、東京タワーからの景色を描き、自転車にも乗っていました。そして、ほんの何日間か、超視覚の訓練を受けた日本の子どももテレビに出ていました。それらを見て、どんな感想を持ちましたか？この子どもたちは、せっかく開発した超視覚を、肉眼のかわりに使うだけでした。それでは、使うだけの価値もないもののために、超視覚を使っています。このようなことは、人間について、また

与えられている機能について、正しい知識がないことから起こります。同様のことが、最近、急にふえ出した白魔術、黒魔術ということについても言えます。確か、4月13日の金曜日の夜だと思いますが、テレビの特別番組に、アメリカの魔女、バベッタという人物が出演しました。そして、愛の白魔術だと称して、いろいろなことをしていました。多くの人たちが見たのではないのでしょうか。見た方はどう思われましたか？好きな人が、自分を好きになるように、自分と結ばれるようにする愛の魔術。お金がたくさんはいるようにする方法。そして、自分に悪意のある人の写真を切り刻み、びん詰めにし、確か、冷蔵庫だったと思いますが、その中に入れておくという方法。よく、考えてみてください。好きな人と結ばれるように願うのは、愛であり良いことでしょうか。悪意がある（と思っている）人に対して、自分の対処のしかたはどうすべきでしょうか。バベッタのやっていたこと、教えていたことは、全部、自分のエゴの欲望をかなえるためのものだと気づかなければなりません。エゴの満足のために、知識を悪用し、不可視のエネルギーを操作しています。真実の愛のためには、エゴ根絶を実行しなければなりません。その上、本当の男女の出会いは聖なる法が決めるのです。我々の低い感情的な思いで結びつかせようとするなら、それは進化のために与えられた人生を狂わせ、カルマの法にも反します。そして、悪意を感じさせられる人があるとするれば、相手に憎悪を返すのではなく、自分を観察しなければなりません。なぜ悪意を感じるか、本当にそうなのか、自分の心理の内側を鏡に映して、答えを探ることがまず初めに必要です。それが理解できれば、どうしたらよいかわかります。特定の人に悪い感情や想念を持っているだけで、それはもう^{初め}なエネルギーを発散させています。無意識に持っている感情的なエネルギーによって、他人に実際の痛みを与えたりします。男性が、肉欲的な視線を持つだけで、女性のオーラを汚すのと同じです。目に見えないエネルギーは、それなりの作用をするのですから。そして、はっきりした意志、意識を持って見えないエネルギーを操作する時、その作用はさらに強くなります。良くも悪くも大変、強力です。日本には、昔、呪いのわる人形というものがありました。現代でも、形を変えやり方を変え、多くの国々の中で行われています。エネルギーは中性です。その見えないエネルギーを+か-か、どちらに使うかはその人によります。日本や、世界中の国々にいるバベッタのような人々のやっていることにだまされないように、そして害を受けないように、自分で守らなければなりません。我身を守る最も強力な方法は、正しい知識を身につけることです。そして、エゴをなくすことです。ですから、エゴ根絶と心理的な仕事を教えないものは、いかに正しく見えても、真実の知識とは言えません。

4 内的な開発のためのプラクティス(実習)

★我々の磁気エネルギーを強める方法(太陽へのあいさつ)

これは、1万年以上前、ペルシャの寺院で行われていたと言われます。我々の磁気エネルギーを増加させるものであり、すべてに生命を与える太陽エネルギーを、全身に吸収するものです。おはようと言えば、おはようといさつするのように、「サラム アレイクム」と言えば「アレイクム サラム」と返します。アルジェフという人物を描いた映画「注目すべき人々との出会い」の中でも、このあいさつが行われていました。このプラクティスは、歌と体の動作と想像（イメージを描く）を同時に行います。

①朝、東に、太陽に向かって立つ。しかし、いる場所の条件によって臨機応変に。

②すべての邪気を体外に出すために、肺の中全部の空気をハッハッハッとスタッカートで吐き出す。そのように、たとえば、肺や体の中にある悪いエネルギーを黒いガスのように想像し、それを息とともにすべて吐き出すように、体内から黒いものがなくなってしまうことを思い浮かべる。

③太陽が前方に輝いているのを想像する。そして、太陽の光がふりそそぎ、自

分が陽光につつまれることを想像し、実感する。そのようなつもりで風景を心に浮かべ、その気になることが大事。イメージを描くことで、エネルギーを集中させ、パワーを増す。

④まず全体を簡単に説明すると、歌は楽符のようにサラム サラム アレイクムを4回くり返す。4回目のアレイクムは、ゆ

Salaam Aleikum.

サラム アレイクム

O. Z. HANMER.

ten. ten. ten.

Sa-laam, Sa-laam..... A-le-i-kum,..... Sa-laam, Sa-
 サラム サラム アレイクム サラムサ

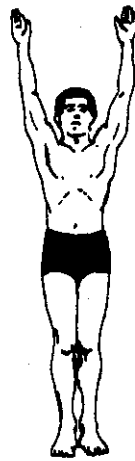
ten. ten. ten.

laam..... A-le-i-kum,.... Sa laam, Sa-laam.... A-le-i-
 ラム アレイクム サラム サラム アレイ

ten. ten. ten.

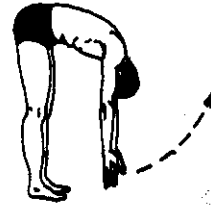
kum,..... Sa-laam, Sa-laam..... A-le-i-kum.....
 ム サラム サラム アレイクム

っくり伸ばしぎみに歌う。特に最後のムーは、エネルギーを満喫するように長く伸ばす。動作は、両手を上にあげ、次に下へ、そして再び上に持ってくる。これを、サラム サラム アレイクムと歌う間に行う。この動作を歌と一緒に、1回目は正面、2回目は左、3回目は右、4回目は再び正面で行う：



→ 図1

図2



⑤まず、邪気のなくなった肺に、太陽エネルギーに満ちた空気を深くすう。

⑥次に、サラム サラムと歌いながら図1のところまで手を上げ、あげたら腰をまげながら手をさげてくる。下げ終わったところで、サラム サラムが歌い終わるように行う。この時、太陽エネルギーを受けとるようなつもりで行う。

図3



⑦次に、図2の状態から、アレイクムと歌いながら地のエネルギーをすくいあげるようなつもりで、体をおこしながら手をあげてハートのあたりまで持ってくる。

⑧⑨の手を上にも上げるところまでは同じように行い、今度は体を左側（やや前方）に倒しながら手を下げていく。（サラム サラム）

⑩⑦をくりかえす。（アレイクム）

⑪⑧と同様に両手を上に上げたら、今度は体を右側（やや前方）に倒しながら手を下に下げていく。（サラム サラム）

⑫⑦をくりかえす。（アレイクム）

⑬⑥と同様に、正面で、両手の上げ下げを行う。（サラム サラム）

⑭最後は図2の状態から、すべてのエネルギーを吸収しきるように、手を胸の高さくらいまであげてきたら、エネルギーを包みこむように合掌する。図3のように、親指の先（合掌の手は、親指をほかの4本の指とはなじぎみにする）をハートの位置につけ、ウム~~~~と長く伸ばし、その音とひびきあうように、手を振動させる。音のひびき、振動とともに、すべてのエネルギーがハートに届くよう味わう。（アーレーイクム~~~~）

初めは、想像するということが一番難しいかもしれませんが、しかし、くっきりとイメージを思い浮かべることで、雑念を払い、意識をより深く集中させることは、大変重要です。それがないと、エネルギーを結晶させることができず、エネルギーは散ってしまいます。プラクティスを始める前に、太陽を想像し、そのイメージを味わい実感できるようにしてみるのも、とても有効だと思いま

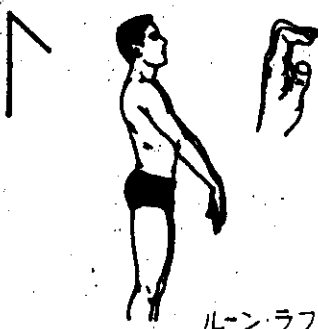
す。

邪気を追い出したあと、なにもせず体をゆったりとリラックスさせ、かかとをつけて立っています。そして、太陽にすべての気持ち、意識を向けます。朝日の美しい風景、御来光を見たことのある人は、その時のことを、ありありと思い浮かべるのも良いでしょう。朝の清浄な空気、さんざんとふりそそぐ光…太陽のまぶしさ……そのまぶしさに向かって、じっと立っている自分を想像します。光に照らされ、自分がくっきり、浮かびあがっています。太陽に、まっすぐに向けた顔に、日の光がふりそそいでいます。おでこが暖かい。ほほやくちびる、あご、肩のあたりをぬくもりが包む……。全身が、暖かく包まれます。それを、ゆっくり息をしながら実感します。そして、両手を真横に広げてみましょう。手のひらは太陽に向けて、体が十字架の形になりました。その姿で、太陽のエネルギーを味わってみましょう。手のひらにも太陽が当たり、とても暖かくなってきます。深く息を吸って、生命のエネルギーを体中に満たします。全身が光に包まれ、輝くことを想像します。この時、かかとを上げ下げしながら深呼吸をする。あるいは、そのままの姿勢で右にまわってみたりします。幽体離脱の時のように、体の波動が変化し、微妙な感覚が出てくるのを感じてください。このように、イメージとエネルギーを、自分なりに深く味わってみてください。このようなことを初めにやり、気持ちを整えてプラクティスをやるとか、プラクティスのあとにやって、そのまま座って瞑想をしてみるとか、自分で工夫し、実践してみてください。ここに、いろいろなことを書くのは、文字を通してしか知る方法のない皆さんが、少しでも「想像する」ということに実感を持てるように、その参考のためです。この説明にとらわれることなく、一人一人が最も深くイメージを描き、実践できるように、どんな想像でも試してその効果、変化をつかんでください。

★太陽の日に、その太陽エネルギーを吸収するために

毎月27日は太陽の日といわれ、特に太陽エネルギーの強い日と言われます。その27日の午前中に行うルーン・ラフ(LAF)です。ラフは救世主、変換の意味です。

①太陽に向かって、まっすぐ背中を伸ばし立つ。



ルーン・ラフ

②図のように、両手を少し持ちあげるが、これは脱力している手を、手首のところで持ちあげるように、手首から先は自然に下げしておく。

③自分の心からの言葉で、救世主に内的な、精神的な援助を求める。ひたむきな、奥底からの心の言葉で願う。(声に出さず心の中で)

④深くゆっくり息を吸う。もちろん、自分の肺活量に応じて、太陽エネルギーを体中に吸収するつも

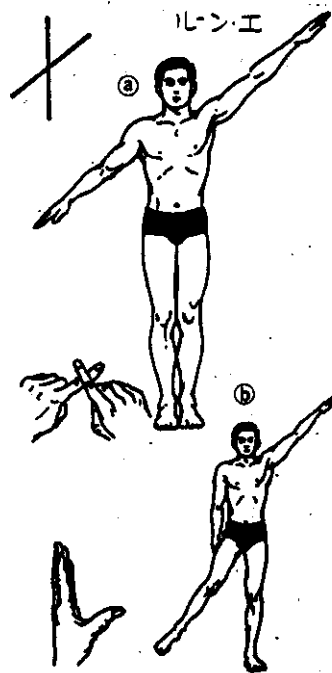
りで。

- ⑤次にマントラ、ラーフーをとなえる。発音は特に難しい点はなく、母音は長く伸ばすようにしてとなえる。
- ⑥次にまた深く息を吸い、そしてラーフーととなえる。このようにして、7回、マントラをとなえ、体中に生命エネルギーが満たされるように想像する。
- ⑦終わったら、両手を胸のところで交差させる。(6号12ページ図b参照)
- ⑧祈りの言葉、「万物が幸福でありますように、万物が幸運でありますように、万物が平和でありますように。」を3回くりかえし、次にアオーム(AOM)のマントラを3回、心をこめてとなえ、終わる。この祈りの言葉とアオームは、ほかのプラクティスの時にも、行うとよい。(アオームは、5号14ページ参照)

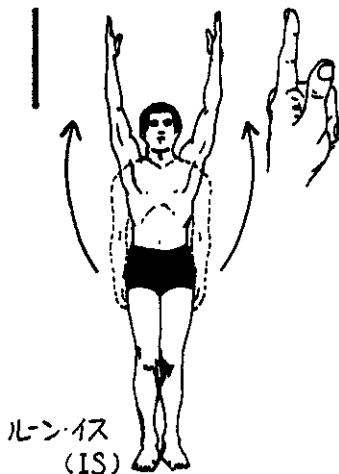
★理想の達成のために援助を願う

ルーン・エ(EH)は希望の星、高い理想を表わし、我々が真の理想の達成のために、助けを願う時に行う。

- ①2つの姿勢のうち、どちらか、やりやすい方で行う。左手を斜め上、右手はその反対、右斜め下に伸ばし立つ。あるいは、左手は前と同じにし、右手は自然に下げ、右足を横にひらき、つまさきを床につける。
- ②深く息を吸う。
- ③援助を願う理想を思いながら、エーと発音する。
発音は、日本語のエで良い。
- ④このようにして、7回、エーをとなえる。
- ⑤手を胸のところで交差し、万物への祈り、3回とアオームを3回で終わる。



★超視覚開発のために



ルーン・イスは、超視覚開発のほか、血液循環、血液洗浄を促します。

- ①背筋をまっすぐ伸ばし、直立不動の姿勢で立つ。
- ②深くゆっくり息を吸いながら、両手を上げていく。まっすぐ上に伸ばし、体と腕が1本の直線になるようなつもりであげる。
- ③そのままの姿勢で、「イースー」を3回となえる。スー(S……)はこれまでも小れてきたように、歯をかみ合わせるようにして息を吐きだした時の音。「イースー」を1回の吐く息でとなえる。

④次に両手をゆっくり下げ、①の姿勢にもどる。

⑤②～④までを1サイクルとして、3回くりかえす。つまり、イースーは、全部で9回となえることになる

⑥終わったら、胸の前で腕を交差させ、ひざまずく。

⑦自分のハートに、深く意識を集中させ、次のように祈る。

⑧「私はイシス、観音、マリアの存在を信じる。それはすなわち自然を象徴する物質的力、それがほらみ、それが光明を与え、それが自然の中に啓示する。イシス、愛の愛をかけて、私はあなたに向かう。無限の宇宙よ。」

⑨そのまま立ちあがり、万物への祈りヒアオームを3回ずつとなえて終わる。イス(IS)を2回くりかえすと、ISIS(宇宙の聖なる母)となる。このプラクティスをやったあと、瞑想するのも大変良い。

☆アストラル体を活動させるために

「フェー ウィン ダー グー」は、アストラル体の活動だけでなく、我々のエーテル、内分泌腺も開発するマントラである。「フェー ウィン」を1回でとなえ、次に息を吸って、「ダー グー」をとなえる。このグーは、ちょうど、いびきのような発音の仕方となえる。記憶力や知性開発のマントラと同様に正座でも、いすにかけてもよく、日の出から夜の12時までのいつでも、10分でも15分でも行ってよい。

☆チャクラの開発のために

このマントラ「カオーム」は、性エネルギー昇華のあとに行うと効果的である。

①太陽に向かって立つ。

②左手を上にも上げる。手のひらは内側に向ける。

③太陽エネルギーを吸収するつもりで息を吸う。

④マントラ「カアー オーウー ムー」をとなえる。

⑤再び、息を吸って「カオーム」をとなえる。このようにして、何回か(奇数の回数)となえる。



このような多くの実践を通して、さまざまな変化、感覚を実感するでしょう。そして、我々の手が、本当にエネルギーをとらえるものだというを確認すると思います。ですから、小だんから、いろいろ試してみることができます。たとえば、右手と左手の感覚の違いをみます。仏像やキリスト像、そのほか神聖であると言われるものに手をかざしてみましょ。手にどんな感覚が感じられるか、右手と左手の違いなど、観察します。マントラや写真、絵など、実際にやってみることで、感覚も養われていきます。そして、効果あるプラクティスの実践と相まって、我々の感性や感覚を鋭く高めていくことができます。なお、8号でとり上げた、超常機能の開発に効果ある性エネルギー昇華法(8号14、15ページ参照)も参考にしてください。すべてのアラ

クティスに共通することは、ここで説明する形にとられるのではなく、自分の最も深い意識集中と、自分の体に合わせて行うことを心がけてください。そして常に、目的と意志を持って、機械的にならないよう注意します。また、性エネルギー昇昇法は、夜の12時を過ぎても行えますが、それ以外のものは、12時前に行います。そして、いくつかのマントラを続けて行う時は、1つのマントラが終わったら、呼吸を整えるために少し休んでから次のマントラを始めます。

最後に、前世を思い出すためのプラクティスです。これはできれば夜、静かで集中できる時が望ましい。

○鏡を使う方法

①鏡の前に座る

②ロウソクを1本、火をつけ、鏡に写らない場所、鏡の横などに置く。

③ハートに意識を集中し、聖なる母に、自分の前世をみるための許しと助けを願う。

④鏡に写っている自分の目に、視線を集中させ、まばたきはできるだけしない。

⑤マントラ「イースー（IS）」を数分間となえる。

⑥鏡の中の、自分の眉間のところに集中する。

⑦体はリラックスさせ、鏡の中に集中し続ける。

⑧終わったら、聖なる母の援助に感謝する。

○コップの水を使う方法

①テーブルの上に、水を入れたコップをおく。

②鏡の時と同様に、ロウソク1本に火をつける。

③そこから適当に離れて、座るか、いすにかける。（参考に約60cmくらい）

④聖なる母に、許しと助けを願う。

⑤「イースー」を、鏡の時と同じようになえる。

⑥コップの水面に、じっとまばたきせずに集中する。

⑦終わったら、鏡の時同様感謝する。

このコップの水を使う方法は、予言者、ノストラダムスが行った方法だと言われます。実際にやってみると、非常に興味深い体験を、いろいろします。そして、自分の前世だけでなく、鏡の時には自分のオーラを見たり、エゴを見たりすることもできます。コップの水でやる時には、過去だけでなく未来を見ることもできます。

今回はプラクティスを多くしました。関心のある方は実践してみてください。

ここでとりあげることはすべては、批判や強制のためではなく、1人1人が自分で判断し、答えを出していけるようにお伝えするだけです。そして、すべてを通して、なぜ、それをしたのか、なんのために与えられているのかを、いつも忘れないでください。

